



にしよどがわ

西淀川にたいふうがきた

にしよどがわ
西淀川に たいふうが きました。学校は おやすみ。

しょうがく わんせい
小学3年生のひかるは、ひとりで おるすばん。

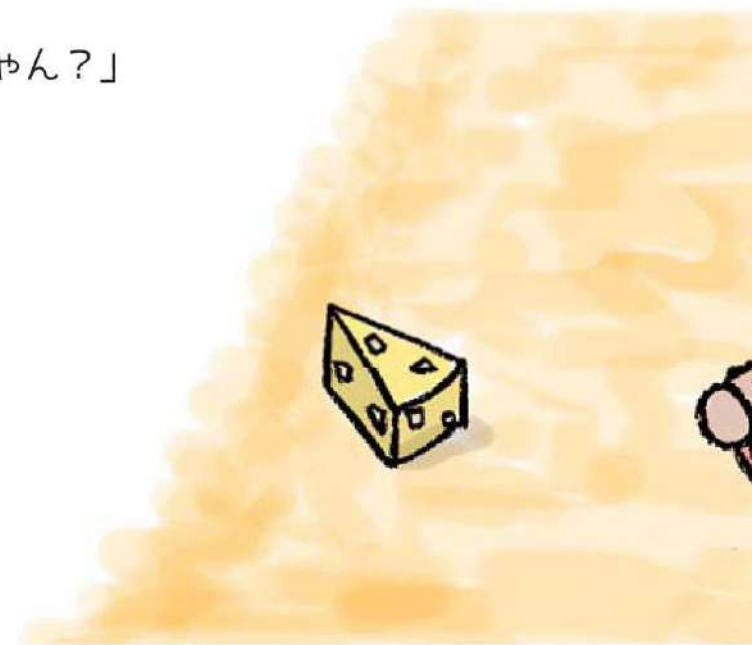
まどの そとは つよい あめと かぜ。

「そとにも でられへんし、ひとりやし、つまらん。

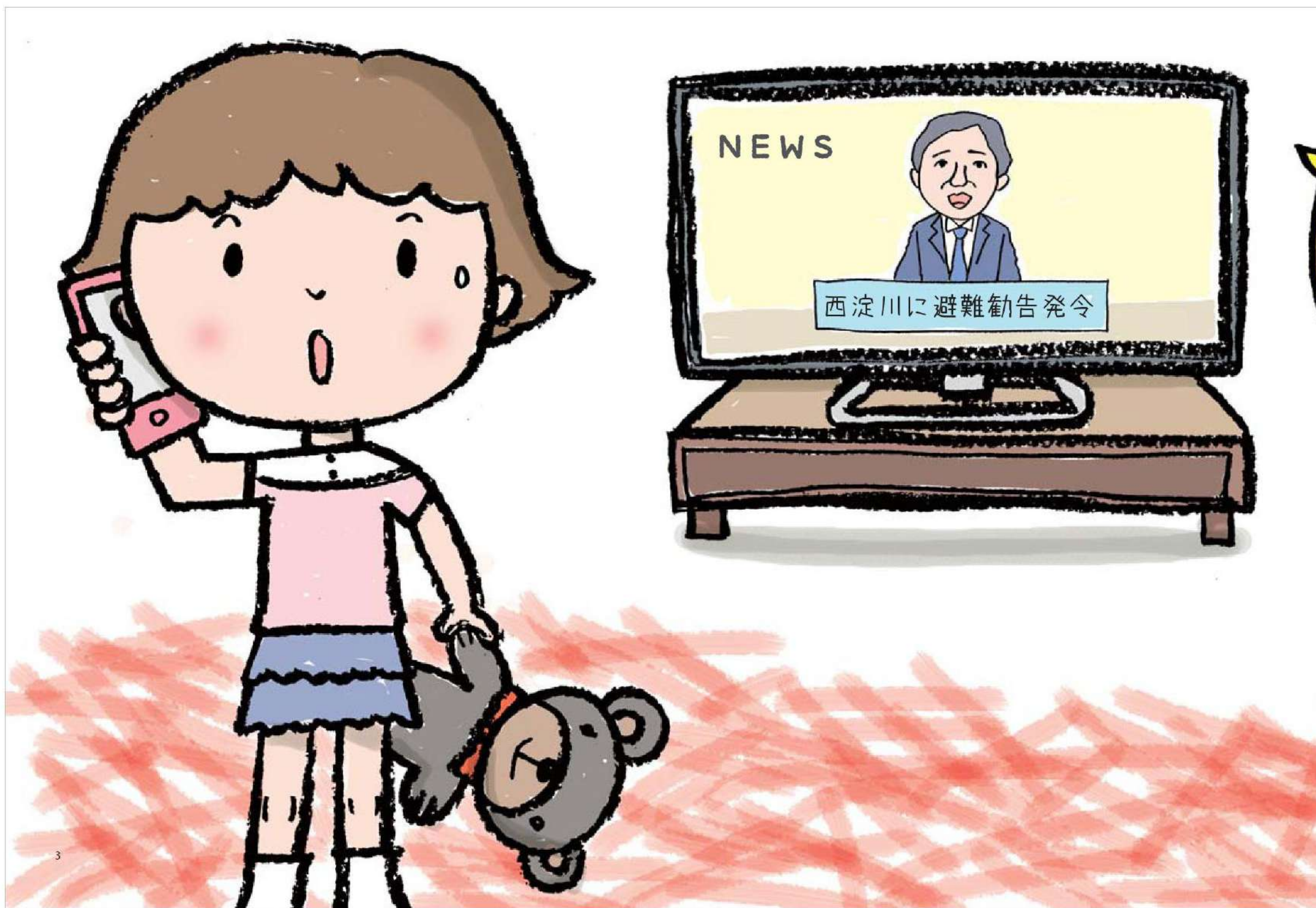
おとうさん、おかあさんも しごとなんか やすめば ええのになあ。もんちゃん？」

ひかるは くまの めいぐるみの もんちゃんに はなしかけました。

もんちゃんは ひかるの おきにいいです。









ひなんして
ください！


テレビから「大雨の おおあめ えいきょうで、にしよどがわく 西淀川区に ひなんかんこくが はつれいされました。

ひなんしてください。」と きこえて きました。

「ひなんって どういうこと？ おかあさんに でんわして みよう」

でも、なんかい 何回かけても つながりません。おとうさんにも つながりません。

「どうしよう？ どうしよう？」








“どうしよう。どうしたらいいんやろ？”

^{そと}外は どうなっているんやろ？”





「外見^{そとみ}にいつてみよ。」

でも、風^{かぜ}が強い^{つよ}せいで、げんかんのドアはびくともしません。

「なんであかへんの？ どうしたらええの？」

「ピンポン」そのとき、よびりんがなりました。

「ひかるちゃん、いる？」

きんじよのみいちゃんのママとみいちゃんです。

「いっしょに^{しょうがっこう}小学校ににげましよう」

「でも、ドアがあかないの」

「こっちからひっぱるから、ひかるちゃんは^{なか}中からおしてみて」

ひかるは、みいちゃんのママときょうりよくしてドアをあけようとしましたが、

それでもドアはあきません。

「ひかるちゃん、まどからは^で出られない？」

ひかるは、みいちゃんママの^て手をかりながら、まどからなんとか^{そと}外にできました。



「わっ。かんばんが おちてきてる」と、みいちゃんが ^い 言いました。

^{かぜ} 風が ^{つよ} 強くて ^{なかなか} なかなか ^{まえ} 前に ^{すす} 進むことが できません。

いつもの ^{みち} 道が とても とおくに ^{かん} かんじました。

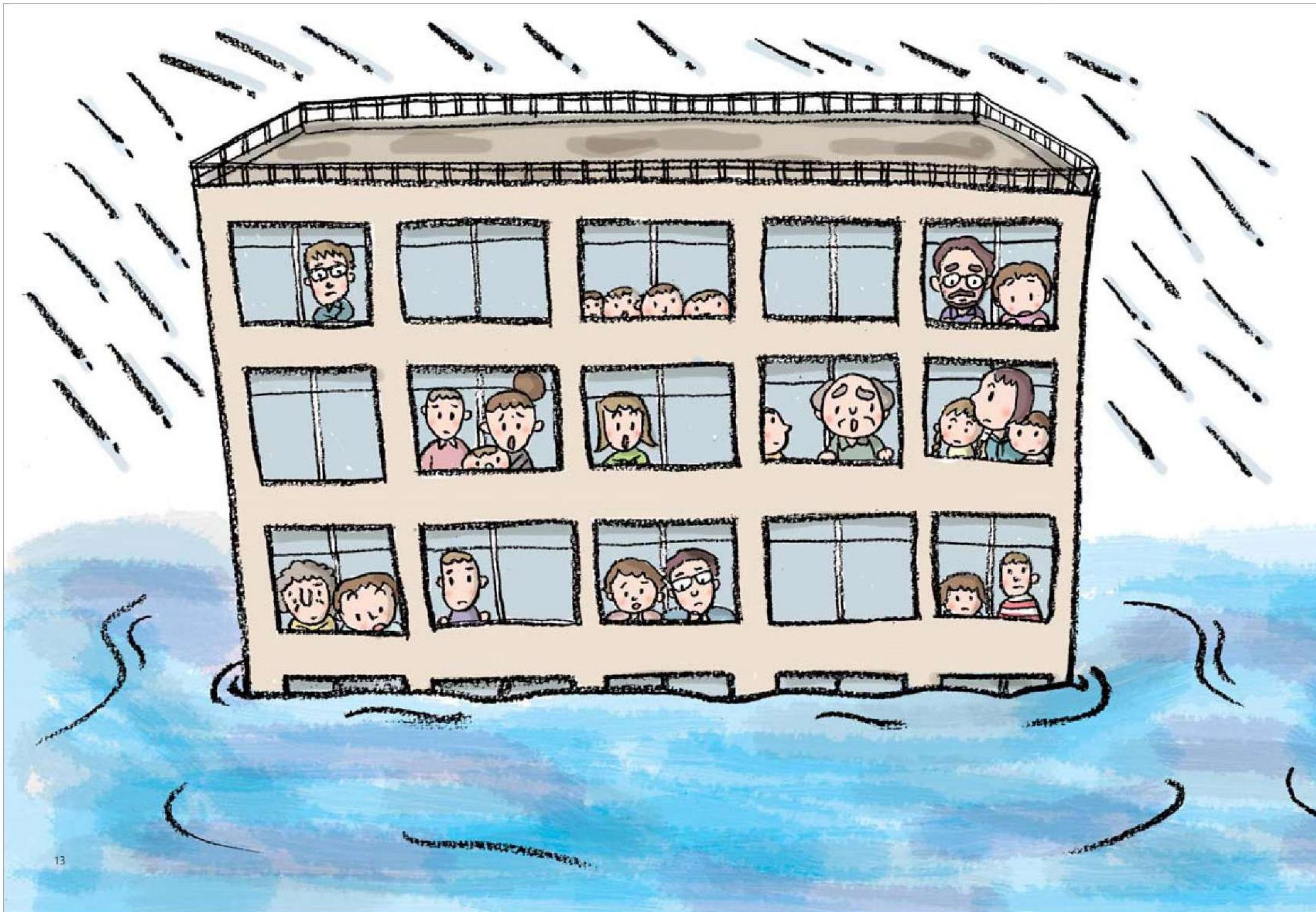
ひかるたちは、^{しょうがっこう} 小学校に ^{なんとか} なんとか つきました。

^{しょうがっこう} 小学校には ^{たくさん} たくさんの ^{ひと} 人が ^{あつ} 集まって いて、

ざわざわして おちつかない ふんいきです。







「ていぼうから ^{みず}水が ^{あふれた}あふれた ^{みたいや}みたいや」と ^{おお}大きな ^{こえ}声が ^き聞こえました。

それを ^き聞いて、^{ひと}たくさんの ^{ひと}の人が ^{そと}外のようすを ^{みる}みるために、

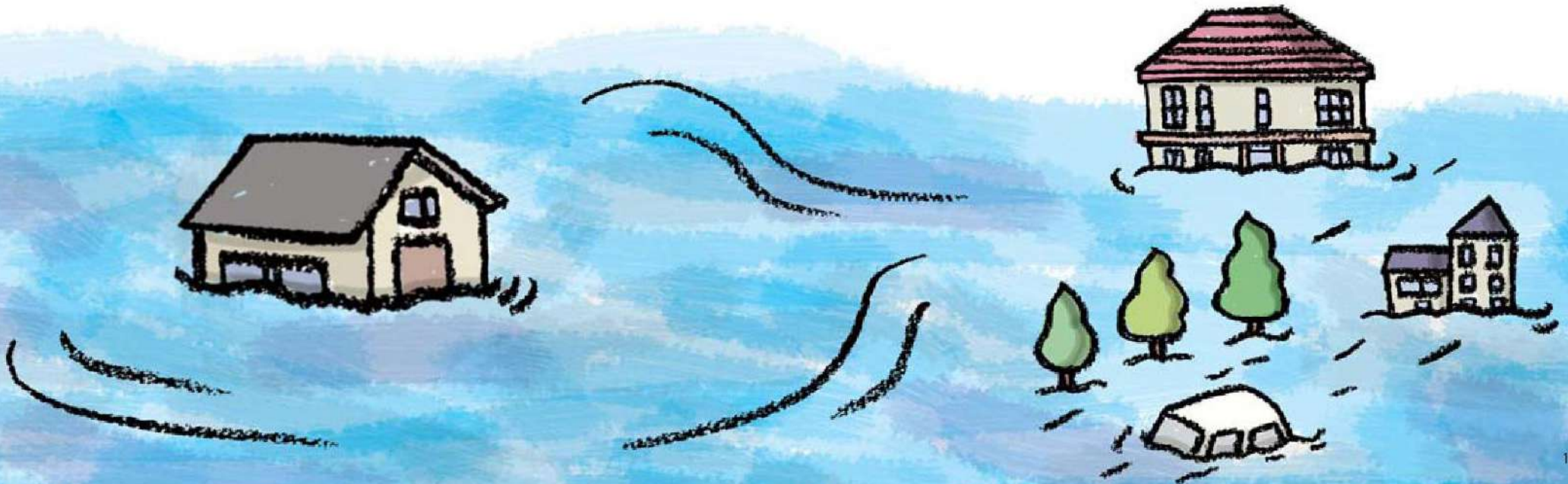
^{うえ}上のかいに ^{むか}むかいました。

まどから ^{そと}そとを ^{みる}みると ^{みず}水が ^{どん}どん ^ふふえていて、

こうしゃが ^{うみ}海 ^{なか}の中に ^{うか}うかんでいるようです。

^{ちか}近くに ^た立っていた ^{ひとり}一人の ^{おじい}おじいちゃん ^がが「^{だい}だいに ^{むろ}むろと ^{たいふう}台風 ^{とき}の時と ^{いっ}いっしょや。

^{とき}あの時は ^{ていぼう}ていぼうが ^き切れて ^{たい}たいへん ^ややった」と ^{はな}話していました。



ゆうがた
夕方に なりました。

ちい こ
小さい子の すすりなきや あか
赤ちゃんの なき^{こえ}声が します。

“ みいちゃんは おかあさんと いっしょに いれて いいな。

おとうさん、 おかあさんは だいじょうぶかなあ。”

そう ^{おも}思いながら、ひかるは もんちゃんを だきしめました。

“ もんちゃんも おるし、小さい子^こや ないんやから ないたら あかん。”

そう ^{おも}思いながらも、ひかるの ^め目から なみだが ボロボロ こぼれます。

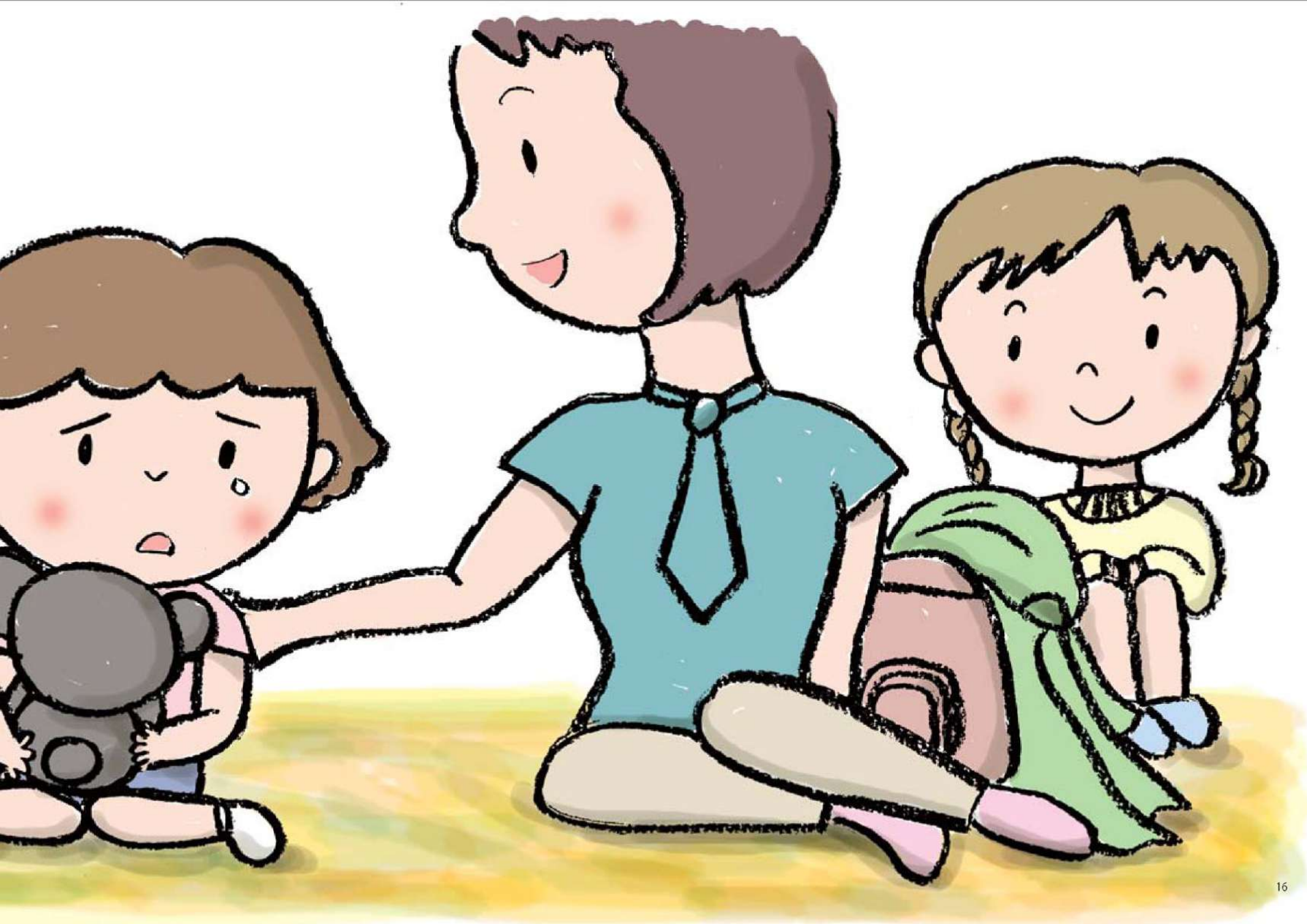
ひかるは、かおを ひざに おしつけて ^{こえ}声を ださずに なきました。

みいちゃんママが

「もうすぐ ひかるちゃんの パパも ママも むかえにくるよ。だいじょうぶよ」と

せなかを ぽんぽんと たたいて くれました。







ふと きがつくと

「ひかる！ ひかる！」と よぶこえが しました。

おかあさんと おとうさんが むかえに きています。

おかあさんの かおは なみだで ぐちゃぐちゃです。

「おかあさん！ おとうさん！」

ひかるは おかあさんと おとうさんに だきつきました。

えほん よ
この絵本を読んだあなたへ

にしよどがわく すいがい
西淀川区はこれまでくりかえし水害にあってきました。

こ いえ とき すいがい
もし、子どもだけで家にいる時に災害がおこってしまっ

たらあなたは どうしますか？

れんらく
かぞくとどうやって連絡をとるのか？

きんじょ
近所でだれをたよりにしているのか？

に
どこに逃げるの？

みち とお あんぜん に
どの道を通れば安全に逃げれるの？

はな あ
といったことを、ふだんからかぞくみんなでお話合っ

おきましょう。

にほんがくじゅっしんこうかいとくべつけんきゅういん たにうち く み こ
日本学術振興会特別研究員 谷内 久美子

まいとし ぜんこくかくち すいがい お おお
毎年のように全国各地で水害が起きて、そのたびに大き

ひが いにしよどがわく か こ すいがい
な被害を受けています。西淀川区では、過去にも水害が

お こんご すいがい はっせい かのう
たくさん起きていることから、今後も水害が発生する可能

せい たか ぼうさいえほん ふくどくほん
性が高いでしょう。そのため、この防災絵本や副読本な

とお ひ すいがい そな ほうほう まな
どを通して、日ごろから水害への備えの方法について学ん

さい すいがい そな こと
でください。その際には、水害から備えるための「答え」を

さが じたく がっこうなど い
探すのではなく、自宅や学校等のふだんからよく行くよう

ばしょ すいがい お ばあい じぶん こうどう
な場所で水害が起きた場合は自分ならどう行動するかな

さまざま じょうきよう そうぞう たいさつ
ど、様々な状況について「想像」することが大切です。

ひと ぼうさいみらい けんきゅういん いしはら りょうが
人と防災未来センター研究員 石原 凌河

※本誌は平成27年度公益財団法人JR西日本あんしん社会財団の助成を受けて作成しました。

発行日：2016年3月

発行元：あおぞら財団

文：谷内久美子 絵：児玉泰江

編集：田代優秋(和歌山大学) 監修：石原凌河(人と防災未来センター 研究員)

協力：NPO法人西淀川子どもセンター、絵本の会西淀川ぼけっと、虹色手芸店

あおぞら財団とは

西淀川大気汚染公害裁判(1978～1998年)の和解金の一部を使って立ち上げられたまちづくり組織。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4F

Tel:06-6475-8885 e-mail:webmaster@aozora.or.jp http://aozora.or.jp/

